

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

第6学年国語科学習指導案

単元名 「意見文で伝える、太一の生き方」 ～言葉を手がかりに、問いを解決しよう～

学習材名「海の命」（光村図書出版 6年）

日 時：令和6年2月16日(金)5校時

児 童：江東区立第二辰巳小学校 第6学年1組 36名

担 任：江東区立第二辰巳小学校 主任教諭 海老根 誠国

指導者：江東区立第二辰巳小学校 主任教諭 海老根 誠国

1 単元の目標

- 語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識することができる。
(知識及び技能) (1) オ
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等) C (1) エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
(思考力、判断力、表現力等) C (1) オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識している。((1) オ)	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (C (1) エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C (1) オ)	①積極的に文章を読んで人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

児童はこれまでの文学的文章を読むことの学習で、登場人物同士の関わりをとらえる力、描写を基にして作品の世界をとらえる力などを高めてきた。文章の内容を把握して楽しむだけでなく、どのような読み方を習得できたかを振り返り、学習の成果を自覚している。本単元では、児童がこれらの習得してきた読む力を活用させ、深い解釈や考えの広がりを実感できるようにしたい。

また、総合的な学習の時間に、これまでの成長や他者との繋がりを振り返ったり、偉人・先人の生き方を調べたりしながら、自分の将来について考える活動を進めている。そのため、本単元でねらいとする登場人物の生き方にも、自然に着目して読むことができる、と考える。単元の終末には、自分自身とも比較しながら、登場人物の生き方についての考えを深められるように指導したい。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材「海の命」は、小学校国語科で学習する最後の文学的文章である。主人公「太一」が、「父」、「与吉じいさ」、「母」、「クエ・瀬の主」など、様々な人物や出来事に影響を受け、成長する人生を描いた物語は、卒業を控えた児童が学ぶのに相応しい。

本学習材の一つ一つの言葉からは、読むほどに人物像や物語の全体像が浮かび上がってくる。どの叙述に着目するのか、そこから何を読み取るのかは、児童によって差が生まれるだろう。もちろん、読解力の差もあれば、解釈の違いもある。だからこそ、その差異を互いに共有し、自分の考えを根拠をもって伝えようとすることにより、他者と協働しながら学ぶ意義のある学習材である。

(3) 単元について（単元観）

本単元の主なねらいである「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」を達成するために、「太一の生き方について、自分の考えを意見文に書く」という言語活動を設定した。

導入では、学習材を読んだ後に、この物語がどのような内容なのかを考える。児童からは、「太一の人生について描いた物語」「太一の成長物語」というような考えが出てくるだろう。そこから、「太一は何を大切に生きてようとしていたのだろうか。」という学習課題を設定し、太一の生き方に迫るために解決していきたい問いを共有する。そのなかで、児童が最も大きく抱く疑問は、「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。」というものだろう。その問いを解決するために、どのような順序でその他の様々な問いを考えていけばよいのか、考えを伝え合うためにどのような言語活動を行いたいのか、児童とともに学習計画を立てていく。

最も大きな「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。」という疑問の解決に向けて、第2時では「太一は、父や与吉じいさからどのような影響を受けたのだろうか。」、第3時では「太一は『本当の一人前の漁師』になったのだろうか。」という問いについて考える。これらの問いも、児童の疑問から選んで設定するものであり、「太一」の最終的な選択に大きな影響を与えた考えとして扱う。この第2・3時において、「父」や「与吉じいさ」の生き方や大切にしていた考え、「太一」との関係性を読み取っていく。その読みを踏まえて、第4時では「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。」という問いについて考える。その後、第5時で「太一はなぜ生がだれにも話さなかったのか。「海の命」に込められた意味とは何か。」という、物語の全体像について考えていく。

さらに、児童の初発の感想からはその他にも、「太一が母の悲しみさえも背負おうとしたのはなぜか。」「千びきに一びきとはどのような意味か。」「海のめぐみとは何か。」など、多種多様な疑問が出てくるのが予想される。第2～5時を読み進めていく中で、適宜それらの個人が抱いた問いにも触れていき、毎時間の終末ではそれらが解決できたかどうか振り返らせる。

最後に第6時では、これまでの読みを踏まえて「太一」の生き方についての意見文を書く。物語で着目した部分（登場人物の生き方や考え方、作者の伝えたいこと、など）、学習を通して深まった解釈、「太一」の生き方から学んだことや考えたこと、自分の生き方に関連付けて考えたことなどをまとめていく。小学校最後の学年として、自分の未来を見据えて物語から生き方について考えるという視点で学習を進めていけるようにしたい。

4 読むこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

読むこと部では「言葉による見方・考え方を働かせること」を次のように捉えた。

【説明的な文章において】

言葉による見方とは、社会的事象、自然科学的事象について書かれた文章を、「社会的な見方・考え方」や「理学的な見方・考え方」で内容を理解することに加え、その文章で、どのように対象（事象）を言語化し、言葉と言葉が関係付けられているか、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見などを持っているのか、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかに着目することであると捉えた。言葉による考え方とは、課題解決に向けて叙述を基に比較したり、順序や理由を考えたり、要約したり、評価したりすることと捉えた。そして、論理的に説明する言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

【文学的な文章において】

言葉による見方とは、物語などのエピソード（出来事）の展開としてのストーリーを理解するだけでなく、人物の会話や地の文における人物の行動や心情の描写や説明がどのように叙述されているか、人物と人物との関係、場面の情景、場面と場面との関係がどのようになっているか、人物像や作品の全体像がどのように形象化されているかに着目することであると捉えた。言葉による考え方とは、虚構の形で表現された登場人物の心情や表現の効果などについて、叙述を基に比較したり、類推したり、因果を捉えたり、分類したりすることと捉えた。そして、文学的な言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

「読むこと部」では、「身に付けたい力」とは、教師の立場からすると「指導事項」、児童の立場からすると「読みの観点(気を付けて読むこと)」ととらえている(例:場面の移り変わり、表現の工夫、人物の相互関係等)。以下2つの手だてによって、児童が単元を通して「読みの観点」を意識して学習できるようにすることで、「言葉による見方・考え方」を働かせる力を高める。

①「読みの観点」の共有

○初発の感想から問いを立て、解決していく計画を立てる

本単元では、児童の疑問を共有し、学級全体で解決していく学習計画を立てる。前述のとおり、児童が本学習材を読んだ際に最も関心をもつ問いは、「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか」というものであると考えられる。その問いを解決するために、「太一」の人物像や、「太一」とその他の登場人物同士との関わりを読んでいく。「太一」が「瀬の主」を打たなかった理由を考えると、おのずと「父」や「与吉じいさ」などの登場人物の影響に考えが至るはずである。「太一」が「瀬の主」を打たないという選択をするまでの思考について、他の登場人物の人物像と関わりという観点で読んでいくことで明らかにする。「太一」は他の登場人物との関わりを通し、どのような思いを受け、そのなかで何を大切に生きていたのか。そうした読みの観点を、児童の思考の流れのなかから引き出し、児童の「問いを解決したい」という思いを軸に主体的に読み進められるようにする。

○人物像や物語の全体像、表現の効果に着目して読む

前述のとおり、問いを解決するという活動を通して、「太一」に影響を与えた登場人物の生き方や考え方を読み取っていく。それはすなわち、その人物像を読んでいくことである。そのためには、登場人物の行動や会話に着目して読み、例えば「父」や「与吉じいさ」が漁師としてどのような考えをもっていたかを具体的に想像することが必要となる。さらに、本学習材には優れた情景描写もあり、「太一」の心情や物語の全体像を読む大きな手掛かりとなる。そうした読みの観点を児童と共有し、読みの力を身に付けさせていきたい。

②学習課題の工夫

○学級で共有する問いと、個人の問い

第1時で児童が抱く疑問を共有し、「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか」という大きな問いと、そこに向かう他の問いと解決の順序を考えていく。それらの問いを解決しようとする中で、人物の行動や会話に着目し、その叙述にどのような人物の考え方・生き方が表れているのかを考える。本学習材中の言葉と

して、学級で共有する問いに関わる「村一番の漁師」や「海の命」などは、それが何を表しているのかが簡明直截に記述されていない。そうした言葉について、前後の記述から考えを構築していくことで、言葉に対する感覚を意識しながら読むことができると考える。

また、それ以外にも「父」や「与吉じいさ」、「母」に関連する問いなど、個人が抱いた問いを解決していく。学級で共有する問いについて考えていくなかで、様々な視点から個人の問いについても解決を試みる。そうすることにより、それまでに培った読みの力を生かして自分の問いを解決し、さらに深く考えることができる。そうした学習過程を経て、児童は身に付いた読みの力を自覚し、解釈を深めていくことへの達成感を味わいながら読むことができると考える。

○「太一の生き方」という、一貫した学習課題

学級で共有する問いを解決するために読み、個人の問いを解決するために読み進めていくと、たどり着くのは「太一の生き方」である。それぞれの登場人物の「太一」に対する思いや、「太一」に伝えたかったこと、それを受けて「太一」が考えたことなどを読んでいく。「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか」という問いを解決しようと読む中で、「太一は何を大切に生きていたのだろうか」という学習課題について考える。この学習課題は、初発の感想や、これまでの既習事項を想起して設定する。例えば、6年時の「やまなし」と「イーハトーヴの夢」の学習では、宮沢賢治の思いや生き方について考えてきた。その学習経験などから、物語の中の「太一」の生き方についても考えていくという学習課題を立てることで、児童がすすんで学習に取り組むことができると考えた。

【「海の命」における、言葉による見方・考え方を働かせたい叙述の例】

「海の命」では、児童の初発の感想をきっかけとして、次のような叙述から学習課題を立てる。その学習課題を解決するためには、「読みの観点（気を付けて読むこと）」を意識して読むことが不可欠であり、その過程で、児童は本文を詳しく読んだり、学級で話し合ったりしながら、自身の「言葉による見方・考え方」を働かせることができる。

叙述	考えさせたいこと	読みの観点（気を付けて読むこと）
ニメートルもある大物をしとめても、父はじまんすることもなく言うのだった。「海のめぐみだからなあ。」	・「海のめぐみ」とは何か。 ・なぜ父はじまんすることもないのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子、行動、会話 ・人物像 ・登場人物の相互関係 ・情景描写 ・物語の全体像
「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」	・「千びきに一びきでいい」とはどういうことか。	
こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないですんだのだ。大魚はこの海の命だと思えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。 ・「海の命」とは何か。 ・太一にとって、「漁師」とは何か。 	

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。
(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

「読むこと部」では、「他者と協働する」とは、「文章中の言葉を媒体として多様な考えに触れることで自分の考えを見直す」ことととらえている。児童同士の考えの交流だけではなく、作者・筆者・登場人物等との対話も含まれる。以下2つの手だてによって、他者との協働を充実させることで、文章中の言葉をより多面的にとらえたり問い直したりすることができると思った。

①交流活動の工夫

○多様な形態での交流活動の充実

問いを解決していくにあたり、まずは個人で精査・解釈を行い、その読みを小グループで共有する。その後、学級全体で考えの共有を行ったり、自分の問いを解決するためにもう一度ペアで考えを問い直したりする。その際には、交流する相手を同じ視点をもつ友達にするのか、それとも異なる視点をもつ友達にするのかなど、児童が自由に選んで交流できるようにすることで、様々な考えに触れさせたい。考えの共

有を行った後は、再度自分自身の考えに立ち戻り、友達の考えを踏まえて自身の考えを構築し直す。こうした交流を行うことで、より多様な視点で考えをもつことができるようにする。

②発問の工夫

○児童から引き出す「価値ある問い」

①「太一は、父や与吉じいさからどのような影響を受けたのだろうか。」、②「太一は『本当の一人前の漁師』になれたのだろうか。」、③「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。」、④「太一はなぜ生がいだれにも話さなかったのか。「海の命」に込められた意味とは何か。」という、学級で共有する4つの問いは、児童の初発の感想や疑問から設定する。これらの問いは、児童の様々な読みを引き出すことができる。考えの根拠は、「太一」や周囲の人々の行動や会話、それを受けて形成される「太一」の人物像や、物語の全体像に関わる叙述に求める。同じ叙述から異なる考えに至る場合もあれば、異なる叙述を根拠として、同じ考えに至ることもあるだろう。そのため、考えを共有することにより、自分の考えをさらに広げたり、深めたりすることができる考えた。

そして、これらの問いを解決しながら読み進めていき、最終的に「太一は何を大切に生きようとしていたのだろうか」という学習課題について意見文を書く。「瀬の主を打たない」という選択をした太一の考えや人物像、太一がその考えに至るまでに影響を与えたそれぞれの人物の人物像や相互関係、物語の全体像など、多様な視点を関連付けながら考えを構築していく。

初発の感想や疑問からは、一見して直接は関係のないような問いが児童から出てくることも考えられる。しかし、教師が着目させたい叙述を明確にとらえておくことで、児童と共に考える「価値ある問い」を立て、追究していくことができるようにする。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

「読むこと部」では、「言語生活を豊かにする」とは、「説明的な文章や文学的な文章を読むよさや面白さに気づき、進んで読書をしたり、読書の幅を広げたりすること」ととらえている。以下2つの手だてによって、児童は「読みの観点」の活用場面を具体的に想定し、今後の言語生活に生かすことができると考えた。

①振り返りの工夫

○プレゼンテーションソフトを活用した振り返り

本單元では、タブレット端末のプレゼンテーションソフトを活用して毎時間の振り返りを書き溜めていく。プレゼンテーション資料の1枚目には、これまでの文学的文章の学習のなかで習得した読みの技を、児童と振り返りながらまとめていく。2枚目以降は、各時間の振り返りを記入する。問いを解決するためにどのような叙述に着目したのか、どのような視点で読み進めたら、登場人物の人物像について解釈を深められたのかなどを振り返らせる。ここでは、個人の問いが解決できたかどうかについても記入することとする。また、学級全体で振り返りを共有し、児童の読みの力を教師が価値付けていくことで、児童がどのような力を身に付けたのかを自覚させる。

さらに、本単元の最後には、「太一の生き方」に着目して読むとどのようなことが分かったのかを振り返らせる。人物の行動や会話、情景描写などに着目して読むことで、人物像や人物同士の関係が分かり、そこから「太一の生き方」について考えをまとめることができたという読みの力を自覚させ、今後の読書にも活用していけるようにする。

②読書活動につなげる工夫

○「生き方・考え方」に着目した読書活動

本單元では、登場人物の生き方や考え方について読み、そこから自分自身の生活に思いを広げていく。また、児童はこれまでに、5年時の「やなせたかし—アンパンマンの勇気」や、「やまなし」と「イーハトーヴの夢」などにおいて、作者自身の生き方・考え方が作品に表出することも学習している。そのように、読書からは作品に描かれている登場人物と、その作品の向こう側にいる作者と、二人の人物像に触れることができる。本單元において、そうした読書活動の意義を児童に実感させ、読書から多様な人生観を味わい、自分自身の生活を豊かにすることができるようにしたい。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
第一 次 構 造 と 内 容 の 把 握	1	<p>1 今まで物語文を読む際にどのような読み方をしてきたのかを出し合う。</p> <p>2 題名「海の命」とはどのようなものかを想像して話し合う。</p> <p>3 全文を読む。</p> <p>4 初発の感想を伝え合い、疑問に思ったことを分類、整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 太一に関連するもの ・ 与吉じいさに関連するもの ・ 父に関連するもの ・ 母に関連するもの ・ 瀬の主に関連するもの </p> <p>5 初発の感想を踏まえて学習課題とそれを解決するための問いを考え、話し合う。</p>	<p>○ ここで出たものを、学びの手引きの既習事項としてまとめる。 → これを、学びの手引きと学習の振り返りをまとめる際に使うプレゼンテーションソフトの1枚目に載せる。</p> <p>○ 立松和平の「命シリーズ」を紹介する。</p> <p>○ 全文シートを用意する。</p> <p>○ 児童の疑問を、デジタルホワイトボードを活用して集約する。</p> <p>○ この話が太一の生き方（人生）について書かれている作品であることを理解させる。その上で学習課題を考えさせる。</p>	
			<p>【学習課題】 太一は何を大切に生きようとしていたのだろうか。</p> <p>【学習課題を解決するための問い】</p> <p>① 太一は、父や与吉じいさからどのような影響を受けたのだろうか。</p> <p>② 太一は『本当の一人前の漁師』になれたのだろうか。</p> <p>③ 太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。</p> <p>④ 太一はなぜ生がいだれにも話さなかったのか。「海の命」に込められた意味とは何か。</p>	<p>○ 学習課題を解決するための問いを考える際、以下の3つを意識させる。</p> <p>① 様々な意見が出そうなもの</p> <p>② 本文に答えがそのまま載っているものはなし</p> <p>③ 本文を読んでも全く解決しないものはなし</p>

		<p>6 具体的な言語活動を考える。</p>	<p>○ 学習課題を解決するための問いに選ばれなかった個人の問いは、デジタルホワイトボードを拡大したものを掲示し、常に見られるようにしておく。そして、毎時間の学習を通して解決されたものはないか確認させる。</p>	
		<p>【言語活動】 太一の生き方について、自分の考えを意見文に書く。</p>		
	<p>7 学習課題やそれを解決するための問いを考えていく際に、どのようなことに気を付けて読むとよいかを考え、学習計画を立てる。</p>	<p>○ どのような学習活動すれば目的が達成できるか、読んだ上でどうしたかを、既習体験をもとに児童と共に考える。</p>	<p>○ 登場人物の生き方に着目して、学級文庫の読書を進めるように伝える。</p>	
		<p>【読みの観点】 人物像や物語の全体像をとらえる読み方</p>		
<p>第二次 精査・ 解釈</p>	<p>2</p>	<p>1 学習計画を確認し、活動の見通しをもつ。</p> <p>太一は、父や与吉じいさからどのような影響を受けたのだろうか。</p> <p>2 意見文の構成を確認する。</p> <p>3 叙述を基に、太一が父や与吉じいさからどのような影響を受けたのかをノートにまとめる。</p> <p>4 トリオのグループを作り、ノートにまとめたものを基に話し合う。</p>	<p>○ まとめる際、以下の3部構成にする。</p> <p>① 太一の大切にしていた生き方</p> <p>② 学習を通して深まった解釈</p> <p>③ 太一の生き方から学んだこと</p> <p>○ 図式化したり記述したりしてまとめさせる。</p> <p>○ 自分の考えの根拠となる記述やノートの記述を示しながら話し合うように伝える。</p>	<p>○着目させたい 主な叙述 ・ニメートルもある大物をしとめても、父は自まんすることもなく言うのだった。 「海のめぐみだからなあ。」 ・「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」 など</p>

<p>5 トリオで話し合ったことを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ トリオで交流したときに、どのような違い、どのような良さがあったのかを含めて発表させる。 ○ 着目した叙述や理由を明らかにして伝えさせる。
<p>太一は『本当の一人前の漁師』になれたのだろうか。</p>	
<p>6 共有したことを踏まえて、自分のノートに加筆したり、修正したりする。</p> <p>7 プレゼンテーションソフトに、振り返りを記録する。</p> <p>① 学びの手引き（習得・活用できた読み方）</p> <p>② 学習の振り返り（個人の問いについてを含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ さらに考えを聞きたい児童がいれば、聞きに行ってもよいこととする。 ○ 加筆修正は色を変えて行わせる。 ○ 言葉の意味や背景をとらえる上で、どのようなことに着目して読んだかを確認し書かせる。 ○ デジタルホワイトボードを拡大したものの掲示物を確認させ、個人の問いで解決できたものがあればそれも記録する。
<p>3</p> <p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 学習計画を確認し、活動の見通しをもつ。</p> <p>3 前時の学習の振り返りや、叙述を基に、自分の考えとその根拠となる叙述や理由をノートにまとめる。</p> <p>4 トリオのグループを作り、ノートにまとめたものを基に話し合う。</p> <p>5 トリオで話し合ったことを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電子黒板に児童の振り返りを映す。 ○ 図式化したり記述したりしてまとめさせる。 ○ 自分の考えの根拠となる記述やノートの記述を示しながら話し合うように伝える。 ○ トリオで交流したときに、どのような違い、どのような良さがあったのかを含めて発表させる。 ○ 着目した叙述や理由を明らかにして伝えさせる。

○着目させたい
主な叙述
・「自分では気づかないだろうが、おまえは村一番の漁師だよ。太一、ここはおまえの海だ。」
・この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。
・太一は村一番の漁師であり続けた。千びきに一びきしかとらないのだから、海のいのちは全く変わらない。 など

◆【知識・技能①】
語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しているかの確認
★発言、ノート

	<p>6 共有したことを踏まえて、自分のノートに加筆したり、修正したりする。</p> <p>7 プレゼンテーションソフトに、振り返りを記録する。</p> <p>① 学びの手引き（習得・活用できた読み方）</p> <p>② 学習の振り返り（個人の問いについてを含む）</p>	<p>○ さらに考えを聞きたい児童がいれば、聞きに行ってもよいこととする。</p> <p>○ 加筆修正は色を変えて行わせる。</p> <p>○ 言葉の意味やその背景をとらえる上で、どのようなことに着目して読んだかを確認して書かせる。</p> <p>○ デジタルホワイトボードを拡大したものの掲示物を確認させ、個人の問いで解決できたものがあればそれも記録する。</p>
<p>4 本 時</p>	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 学習計画を確認し、活動の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。</p> </div> <p>3 トリオのグループを作り、あらかじめノートにまとめたものを基に話し合う。</p> <p>4 トリオで話し合ったことを共有する。</p> <p>5 共有したことを踏まえて、自分のノートに加筆したり、修正したりする。</p>	<p>○ 電子黒板に児童の振り返りを映す。</p> <p>○ 課外で、太一が瀬の主を打たなかった理由についてノートにまとめさせておく。</p> <p>○ 図式化したり記述したりしてまとめさせる。</p> <p>○ 自分の考えの根拠となる記述やノートの記述を示しながら話し合うように伝える。</p> <p>○ トリオで交流したときに、どのような違い、どのような良さがあったのかを含めて発表させる。</p> <p>○ 着目した叙述や理由を明らかにして伝えさせる。</p> <p>○ さらに考えを聞きたい児童がいれば、聞きに行ってもよいこととする。</p> <p>○ 加筆修正は色を変えて行わせる。</p>

◆【思考・判断・表現①】

叙述を基に、太一の行動の理由や背景を具体的に想像しているかの確認

★発言、ノート

	<p>6 プレゼンテーションソフトに、振り返りを記録する。</p> <p>① 学びの手引き（習得・活用できた読み方）</p> <p>② 学習の振り返り（個人の問いについてを含む）</p>	<p>○ 太一の行動の理由や背景をとらえる上で、どのようなことに着目して読んだかを確認し書かせる。</p> <p>○ デジタルホワイトボードを拡大したものの掲示物を確認させ、個人の問いで解決できたものがあればそれも記録する。</p>	
5	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 学習計画を確認し、活動の見通しをもつ。</p>	<p>○ 電子黒板に児童の振り返りを映す。</p>	
<p>太一はなぜ生がいだれにも話さなかったのか。「海の命」に込められた意味とは何か。</p>			
	<p>3 前時の学習を振り返りながら、太一が瀬の主を打たなかったことを誰にも話さなかった理由と、「海の命」に込められた意味についてノートにまとめる。</p> <p>4 トリオのグループを作り、ノートにまとめたものを基に話し合う。</p> <p>5 トリオで話し合ったことを共有する。</p>	<p>○ 図式化したり記述したりしてまとめさせる。</p> <p>○ 第一時で考えた題名でもある「海の命」の意味についても掘り下げられるようにする。</p> <p>○ 自分の考えの根拠となる記述やノートの記述を示しながら話し合うように伝える。</p> <p>○ トリオで交流したときに、どのような違い、どのような良さがあったのかを含めて発表させる。</p> <p>○ 着目した叙述や理由を明らかにして伝えさせる。</p>	<p>○着目させたい 主な叙述 ・ニメートルもある大物をしとめても、父は自まんすることもなく言うのだった。「海のめぐみだからなあ。」 不漁の日が十日間続いても、父は何も変わらなかった。 ・大魚はこの海の命だと思えた。 ・千びきに一びきしかとらないのだから、海のいのちは全く変わらない。 など</p>
	<p>6 共有したことを踏まえて、自分のノートに加筆したり、修正したりする。</p> <p>7 プレゼンテーションソフトに、振り返りを記録する。</p> <p>① 学びの手引き（習得・活用できた読み方）</p>	<p>○ さらに考えを聞きたい児童がいれば、聞きに行ってもよいこととする。</p> <p>○ 加筆修正は色を変えて行わせる。</p> <p>○ 太一の行動の理由や背景をとらえる上で、どのようなことに着目して読んだかを確認し書かせる。</p>	<p>◆【主体的に学習に取り組む態度①】 積極的に文章を読んで人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしていくかの確認</p> <p>★発言、ノート</p>

		② 学習の振り返り個人の問いについてを含む)	○ デジタルホワイトボードを拡大したものの掲示物を確認させ、個人の問いで解決できたものがあればそれも記録する。	
第三次 考えの 形成 共有	6	1 前時までの学習を振り返る。	○ 電子黒板に児童の振り返りを映す。	
		2 学習計画を確認し、活動の見通しをもつ。		
太一は何を大切に生きていたのか、自分の考えを意見文にまとめよう。				
		3 意見文の構成を確認する。	○まとめる際、以下の3部構成にする。 ① 太一の大切にしていた生き方 ② 学習を通して深まった解釈 ③ 太一の生き方から学んだこと	◆【思考・判断・表現②】 前時までに捉えたことや想像したことを基に、自分の経験や知識と関連させて考えをまとめているかの確認 ★意見文
		4 前時までに捉えたことを踏まえ、太一の生き方をまとめる。		
		5 まとめた意見文を基に自分の考えを伝え合う。	○ 今後も習得・活用できた読み方を基に「登場人物の生き方、大切にしていたこと」を捉えて読書を進めるように伝える。	
		6 「学びの手引き」を基に、単元を通して習得・活用できた読み方を振り返る。		
		7 教科書に載っている関連図書を紹介する。		

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

太一の行動の理由や背景を具体的に想像することができる。

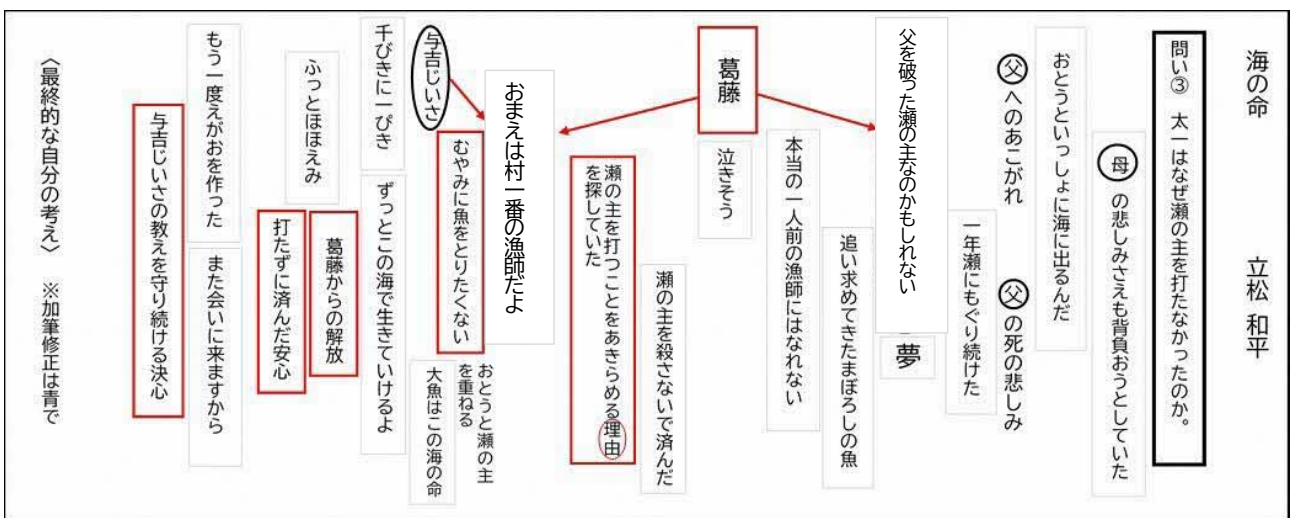
(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時までの学習を振り返る。 2 学習計画を確認し、活動の見直しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。</div>	○ 電子黒板に児童の振り返りを映す。	○ 着目させたい主な叙述 ・ 追い求めているうちに、不意に夢は実現するものだ。 ・ 太一は海草のゆれる穴のおくに、青い宝石の目を見た。 ・ もう一度もどってきてても、瀬の主は全く動こうとはせずに太一を見ていた。おだやかな目だった。この大魚は自分に殺されたがっているのだと、太一は思ったほどだった。 ・ この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。 ・ 水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かってもう一度えがおを作った。 「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」 こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないですんだのだ。大魚はこの海の命だと思えた。 <div style="text-align: right;">など</div>
3 全文シートとノートを見て、自分の考えに至った理由や、根拠となる叙述を確認する。 4 トリオのグループを作り、あらかじめノートにまとめたものを基に話し合う。 5 トリオで話し合ったことを共有する。	○ 事前に、太一が瀬の主を打たなかった理由についてノートにまとめさせておく。 ○ 自分の考えの根拠となる叙述やを示しながら話し合うように伝える。 ○ 学級での全体交流の後に自由交流を行ってもよいこととするので、この場で様々な友達の考えを聞き、さらに詳しく考えを聞きたくなった友達がいたら、この後に聞きに行くよう伝える。 ○ トリオで交流したときに、どのような違い、どのような良さがあったのかを含めて発表させる。 ○ 着目した叙述や理由を明らかにして伝えさせる。	
6 共有したことを踏まえて、自分のノートに加筆したり、修正したりする。 (例) 父を破り、長年追い求めてきた獲物であろう瀬の主のクエが、もりをつき出しても、動かずおだやかな目をしていて。その中で、父や与吉じいさの教え、母の思いを思い出した。父が言った「海のめぐみ」、与吉じいさが言った「千びきに一びきでいいんだ」、母の悲しみ。そこから、自分よがりではなく、海に感謝し、	○ 同じ意見をもつ友達や、異なる意見をもつ友達など、さらに考えを聞きたい相手がいれば、聞きに行ってもよいこととする。 ○ 加筆修正は鉛筆の色を変えて行わせる。	◆【思考・判断・表現①】 叙述を基に、太一の行動の理由や背景を具体的に想像しているかの確認 ★発言、ノート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u> 太一の生き方について書かせる際には、登場人物の相互関係を踏まえながら、書かせるようにする。 ○ <u>おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て</u> 本時で学習したことを基に、太一の生き方が書けるように声をかける。 </div>

<p>海の命を大切に海に挑まない生き方を選んだ。だから、太一は瀬の主を打たなかった。</p> <p>7 プレゼンテーションソフトに、記録をする。</p> <p>① 学びの手引き(習得・活用できた読み方)</p> <p>② 学習の振り返り(個人の問いについてを含む)</p>	<p>○ 太一の行動の理由や背景をとらえる上で、どのようなことに着目して読んだかを確認し書かせる。</p> <p>○ デジタルホワイトボードを拡大したものの掲示物を確認させ、個人の問いで解決できたものがあればそれも記録する。</p>	
--	--	--

8 資料

(1) 板書計画



(2) 第6時でまとめる意見文の例

太一の大切にしていた生き方は与吉じいさが言っていた「千匹に一匹」だと思う。本当の一人前の漁師にはならず、村一番の漁師でい続けるのが太一の生き方だと思った。なぜなら、瀬の主を打たずに村一番の漁師であり続けたからだ。

与吉じいさが亡くなったときに「海に帰りましたか」という表現をしていて、なぜわざわざ「海」を使うのだろうと思ひ、頭の片隅にそのことを置いていたら、違う問いをどんどん解決していくと、全部の問いが解決したときに点と点がつながって、このわざわざ「海」という言葉を使った理由が分かり、海という言葉の意味が分かったから、どんどん新しい考えが増えていった。

私は、太一の生き方から、誰かにあこがれることもいいが、いろいろな経験をすると、あこがれている人以外にも興味をもつことができ、自分自身の考えが生まれるということを知った。そして、それを心の中に永遠に置くことができるということを知った。だから、これからは、興味をもった人にこだわり過ぎるのではなく、いろいろな経験をして、物事に対して自分自身の新しい考え方を生み出していきたい。それは、私が大切にしていきたいと考えている「他者とのコミュニケーション」にもつながるはずだ。